



主催 千種区役所 千種区安心・安全で快適なまちづくり協議会

## 【俳句部門】

最優秀賞	こぬか <sup>あめ</sup> 雨 四葩 <sup>よひら はな</sup> の花は みな <sup>えがお</sup> 笑顔	副松 勲
～審査員講評～		
だれにでもわかる明快な句。四葩の花を見て、単純な表現で描き、千種区を愛し区民の人々の喜びの音が聞こえてきそうです。穏やかな園を眺め、良く詠まれた風景。花を見て笑顔と作者はそう感じた感覚的でユニークな作品。「こぬか雨」との組み合わせが良いです。		
優秀賞	朝顔 <sup>あさがお</sup> が 笑え <sup>わら</sup> 笑え <sup>わら</sup> と 言う <sup>い</sup> もので	柘植 雅一
優秀賞	今朝 <sup>けさつ</sup> 摘みし 蓮華 <sup>げんげかざ</sup> 挿して 孫 <sup>まごき</sup> 来たる	川崎 喜久子
優秀賞	隣 <sup>となり</sup> の娘 <sup>こ</sup> の 朝 <sup>あさ</sup> シャン <sup>におう</sup> 匂 <sup>あき</sup> ふ 秋 <sup>はれ</sup> の晴	淑風
佳作	金風 <sup>きんぷう</sup> や ひ 引 <sup>ひ</sup> っぱりだこの メダ <sup>メダ</sup> リスト	キタロー
佳作	夕 <sup>ゆう</sup> べ <sup>み</sup> 見た ほたる <sup>ほたる</sup> び 螢 <sup>きつね</sup> 火 <sup>び</sup> まさか 狐 <sup>きつね</sup> 火 <sup>び</sup> か	松田 真希
佳作	村 <sup>むらまつ</sup> 祭り わら 笑 <sup>わら</sup> いをさそ <sup>わら</sup> ふ 安 <sup>やす</sup> 来 <sup>き</sup> 節 <sup>ぶし</sup>	熊田 八郎
佳作	朝 <sup>あさがお</sup> 顔 <sup>あ</sup> や た 耐 <sup>た</sup> へた夜 <sup>よ</sup> 明 <sup>あけ</sup> に さ 咲 <sup>さ</sup> く笑 <sup>え</sup> 顔 <sup>がお</sup>	ふる武
佳作	三 <sup>さん</sup> 叉 <sup>さ</sup> 路 <sup>ろ</sup> の く <sup>く</sup> か 供 <sup>え</sup> 花 <sup>え</sup> にほほ笑 <sup>え</sup> む 揚 <sup>あげ</sup> 羽 <sup>は</sup> 蝶 <sup>ちょう</sup>	松波 壽子

## 【川柳部門】

最優秀賞 <sup>ま</sup>蒔<sup>しあわ</sup>いただけ <sup>え</sup>幸<sup>たね</sup>せくれる <sup>え</sup>笑<sup>たね</sup>みの種 松浦 美津江

～審査員講評～

明るく元気のよい笑顔に出会うと、何だか得をしたような気持ちになります。落ち込んでいる時などもっと元気を出さなくてはと気持ち切り替えのスイッチが入ります。笑顔をもったら今度は自分が笑顔をあげる番。健康であればこそ「笑みの種」を蒔くことができると思います。

優秀賞 <sup>えんじ</sup>園児<sup>い</sup>から おはよう<sup>きょう</sup>言<sup>は</sup>われ 今日<sup>は</sup>は晴れ 野々部 信男

優秀賞 <sup>まんめん</sup>満面<sup>えがおごさい</sup>の 笑顔<sup>五才</sup>の さかあがり 四方田 川雀

優秀賞 <sup>めんせつ</sup>面接<sup>かがみ</sup>へ <sup>えがお</sup>鏡<sup>つ</sup>の笑顔 連れてゆき 宇津野 甫子

佳作 「はいチーズ！」 <sup>きんちょう</sup>緊張<sup>ほぐす</sup> ほぐす おまじない 奥村 勝志

佳作 <sup>ひやくやく</sup>百薬<sup>まさ</sup>に 勝<sup>こ</sup>るリモート <sup>えがお</sup>子の笑顔 松波 壽子

佳作 <sup>の</sup>伸びる芽<sup>め</sup>へ <sup>えがお</sup>笑顔<sup>た</sup>も足<sup>あす</sup>して 明日<sup>ゆめ</sup>へ夢 前田 ヒデ子

佳作 <sup>な</sup>泣<sup>まんげつ</sup>かないで ほら満月<sup>が</sup> <sup>わら</sup>笑<sup>てる</sup>ってる 川村 道子

佳作 <sup>えがお</sup>笑顔<sup>えがお</sup>には 笑顔<sup>ま</sup>のお負け ついてくる 山口 和子

【子ども部門】

---

さいゆうしゅうしょう 最優秀賞 かんごしの おしごとおわり ママ笑<sup>え</sup>がお 杉浦 心優

～審査員講評～

かあ たいへん しごと おわ いえ かえ  
お母さんの大変なお仕事<sup>え</sup>がやっと終<sup>え</sup>って、家<sup>いえ</sup>に帰<sup>かえ</sup>って

ようす ま さくしゃ  
ほっとした様子<sup>ようす</sup>と、家<sup>ま</sup>で待<sup>ま</sup>っていた作者<sup>さくしゃ</sup>の「おかえり

はず こえ き あたた  
一<sup>はず</sup>」という弾<sup>こえ</sup>んだ声<sup>き</sup>が聞こえてくるようで、とても温<sup>あたた</sup>

かてい め み とき  
かい家庭<sup>かてい</sup>の様子<sup>め</sup>が目<sup>み</sup>に見えるようですね。こんな時<sup>とき</sup>の

ふたり えがお しぜん すば おも  
二人<sup>ふたり</sup>の笑顔<sup>えがお</sup>は、とても自然<sup>しぜん</sup>で素晴<sup>すば</sup>らしいと思<sup>おも</sup>いました。

---

ゆうしゅうしょう 優秀賞 おねえちゃん いしょになわとび ぴよんぴよんぴよん すずき ことは

---

ゆうしゅうしょう 優秀賞 てつぼうで はじ 初めてできた さかあがり 村松 愛花

---

ゆうしゅうしょう 優秀賞 べんきょうで ひやく 百てんとれた やりました 福元 夏妃

---

ゆうしゅうしょう 優秀賞 ケンカして なかなかおりして もうえがお 小島 モナ

---

ゆうしゅうしょう 優秀賞 あか 赤<sup>あか</sup>ちゃんは たくさん<sup>わら</sup>笑<sup>わら</sup>う はな 花<sup>はな</sup>みたい 林 希帆

---

ゆうしゅうしょう 優秀賞 びょうしつ まど さくら そ 病<sup>びょうしつ</sup>室<sup>しつ</sup>の 窓<sup>まど</sup>の桜<sup>さくら</sup>や 祖父<sup>そ</sup>父<sup>ふ</sup>笑<sup>えがお</sup>顔 河合 祐貴子

佳作	ランドセル わたしといっしょに なつやすみ	きくち きさ
佳作	おじいちゃん いねむりしてる くすくすくす	田中 椿倉
佳作	二時におき ディズニー行くよ ワクワクだ	石丸 昊希
佳作	あっかんべ みんなとすると 大わらい	柳沢 樹里亜
佳作	赤ちゃんが アハハと笑う 親もだよ	松国 由衣
佳作	おわかれ会 かなしいけれど えがおでね	中村 美優
佳作	にせ笑顔 本物よりも いやな顔	伊藤 世莉
佳作	ハムスター ひっくり返し 顔キョトン	川瀬 綾萌
佳作	タンポポが わたげになって とんでくよ	津田 珠里
佳作	難民の 子どもにおくる プレゼント	石川 凜子
佳作	「はいチーズ」 マスク取るなり いい笑顔	栗原 健
佳作	炎屋の 最後のマウンド 咲く笑顔	今井 涼太



第七回千種区俳句・川柳コンクール  
～笑顔にまつわる句を自由に詠んでみよう～

選者

俳句部門	大原 坦	先生(ともしび白珠句会俳句部門編集責任者)
川柳部門	荒川 八洲雄	先生(中日川柳会会長)
子ども部門	宮井 寛	先生(ともしび白珠句会事務長)

応募総数

俳句部門	1 4 6 句
川柳部門	1 9 7 句
子ども部門	1, 3 3 5 句

